12. 住たく地の開発

1955(昭和30)年ごろから，都市からこう外に住む人が多くなりました。日本のけいざい活動が活発になったおかげで国民のくらしは以前よりゆたかになり，家族でかいてきな生活を送るために都市で一戸建ての家に住むようゆうが生まれました。しかし，大都市の人口が増え，自動車のはい気ガスやそう音などの問題も目立ち始めていましたから，大都市へ行くのに便利なこう外の鉄道の近くに家を建てる人が増えました。

近鉄大阪線で大阪と結ばれた名張市は，きれいな空気と水，ゆたかな自然にめぐまれて，生活するにも子育てするにも，とても条件のよい土地でした。大阪を中心とした関西けんにつとめ，名張市に家を建てて家族でくらしたいという人たちのために，名張市内で大きぼな住たく地の開発が進みました。え戸時代から続く市街地を囲むように，おかや山や谷が住たく地にすがたを変えていきました。

桔梗が丘住宅地

1．桔梗が丘住たく地

桔梗が丘西地区のまちなみ

名張で最初につくられた大型住たく地は桔梗が丘でした。開発業者がぞう成に乗り出し，1963（昭和38）年に工事が始まりした。よく年に桔梗が丘駅が開せつされ，次の年には人が住み始めました。桔梗が丘という名前は，え戸時代に名張を治めた名張藤堂家が桔梗の花を家もんとしたことからつけられました。

関西けんからうつり住む人がふえ，桔梗が丘には，ショッピングセンター，ようち園，小学校，中学校，高等学校，交番，ゆう便局，公民館（市民センター）などの公共しせつがあいついでつくられました。1990（平成2）年には近鉄線の西側にも住たく地が生まれました。

桔梗が丘駅。左は50年ほど前、下は現在

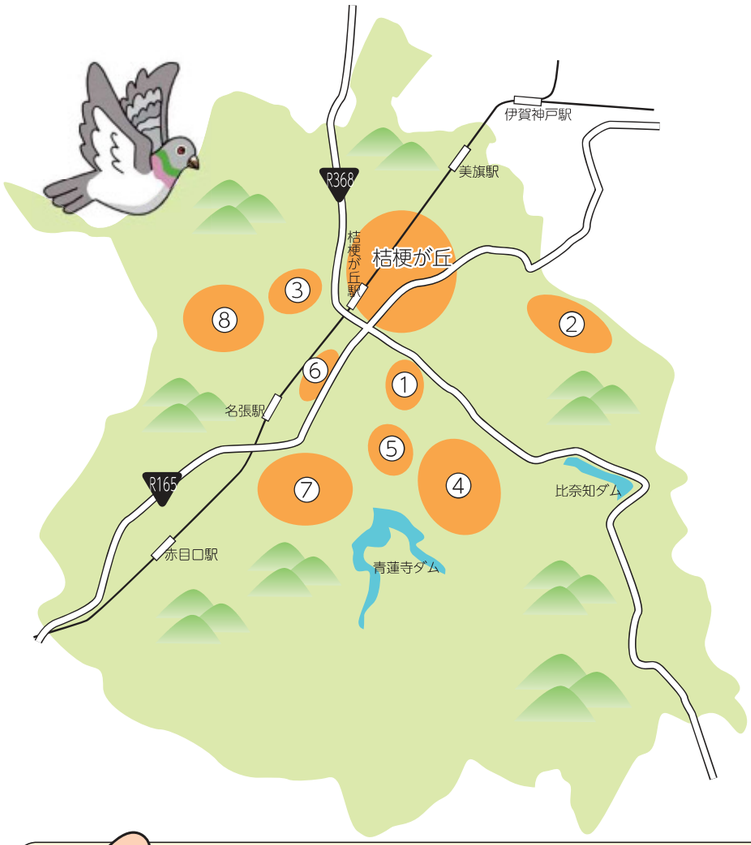
名張藤堂家

名張藤堂家は，織田信長の重臣丹羽長秀の三男で藤堂高虎の養子となった高吉に始まり，1636（寛永13）年以来名張に屋しきをかまえました。その場所は桔梗ケ丘とよばれていました。

【→P13】

2．市内の住たく地

名張市内には桔梗が丘のほかにも大型住たく地がつくられました。1965（昭和40）年ごろには緑が丘，富貴ケ丘，1975（昭和50）年ごろから1985（昭和60）年ごろにはつつじが丘，さつき台，すずらん台，百合が丘，梅が丘などの新しいまちが次々に生まれ，赤目町新川や美旗町など駅の周辺でも住たく地ができてきました。今では市内の40か所に住たく地がつくられています。



さて，問題です。これらの住たく地は上の地図の中のどの番号になるでしょう。

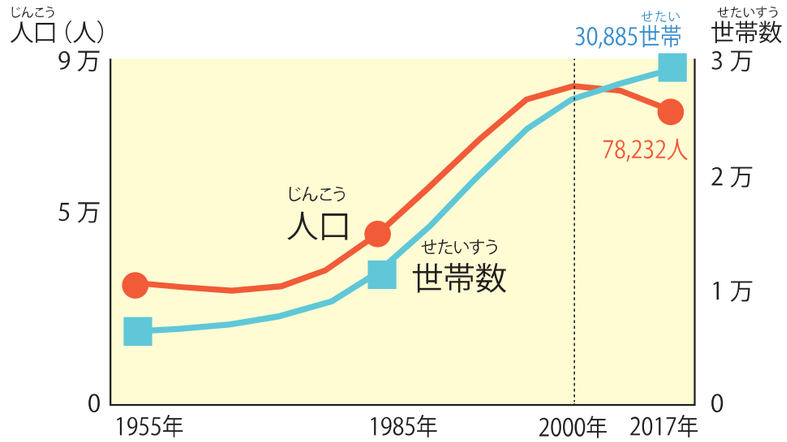
【　】すずらん台　【　】緑が丘　【　】富貴ケ丘
【　】つつじが丘　【　】梅が丘　【　】春日丘
【　】鴻之台　【　】百合が丘

3．名張市の人口

多くの住たく地にたくさん人がうつり住んで，名張市の人口は急にふえました。1954（昭和29）年に町村合ぺいで名張市がたん生した時には約3万人でしたが，2000（平成12）年には8万5千人をこえました。しかしそのよく年から，名張市の人口はへり始めました。2016（平成28）年には約8万人になり，16年間で5千人へりました。

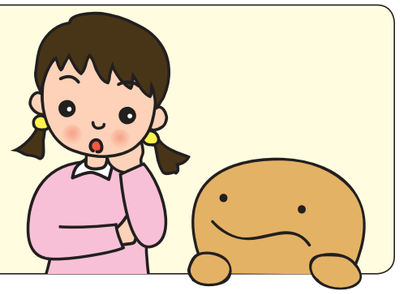
日本全体で見ても，2011（平成23）年に人口のげん少が始まりました。子どもの数がへり，人口のうちに高れい者のしめるわり合がふえています。名張市も同じことがいえます。市内に生まれた新しい住たく地も，その例外ではありません。このような人口の変化が続くとわたしたちの生活は，これからどうなるのでしょうか。

名張市の人口・世帯数のうつり変わりのグラフ



上のグラフからどんなことがわかるかな。

名張に住む人や働く人がふえるにはどうしたらよいでしょうか。



【→P54】